

第1学年 国語科学習指導案

日時 平成17年10月4日(火)5校時
授業会場 遠野市立遠野中学校1年1組教室
学級 1年1組(男13名女15名)
授業者 教諭 加藤 公保

1. 単元名 四 暮らしを見つめる 教材名「『めぐる輪』の中で生きる」

2. 単元について

(1) 教育の時代要請

情報を確かに読み取り、目的に応じて相手に伝わるようわかりやすく発信できることがこの時代に必要な力であると考えます。

説明文教材は、筆者が伝えたい内容を、事実や事象を選んで読者にわかりやすく論理的に書いた文章である。生徒は、こうした文章を読みながら筋道の通った論理の展開の仕方を学ぶことができる。また、教材から学んだ筋道の通った展開の仕方を自分の表現に生かすこともできる。そこで、説明文教材を通して、情報を確かに読み取り目的に応じて相手に伝わるようわかりやすく発信できる力を身につけさせていきたい。

(2) 単元全体の教材観

本単元では、二つの文章が取り上げられている(「魚を育てる森」、「めぐる輪の中で生きる」)。本時で扱う「めぐる輪の中で生きる」は二つ目の文章である。どちらの文章も人間の暮らしと自然環境とのかわりを具体的に論じている。しっかりとした文章構成のもとに、具体的でわかりやすい事例が取り上げられているので、科学的・論理的な考え方を学ぶと同時に自分の生活や行動と自然保護や環境保護との結びつきを実感としてとらえることができる。そして、これらの文章をとおして学んだことをもとに、資料を調査し、意見文を書くことによって、自分の考えを伝える力を高めるだけでなく、互いに意見を交換し合う中で自分の視野を広げるとともに、コミュニケーションの能力を養うことができる。

本時の教材「めぐる輪の中で生きる」は、食物連鎖の頂点にいる人間がその連鎖を活用する取り組みを行っていることを通して、環境全体との関連を考えながら自分たちの生活を見直していこうと呼びかける内容である。文章全体は大きく二つの意味段落に分けられ、前半では、アメリカで行われた「ミニ地球」の実験の例を、後半では日本の自治体による取り組みを紹介しながら上記の意見を訴えている。

これらのことから、1年生のこの時期に指導するのに適した教材である。

(3) 生徒について

本校の生徒の特徴として次の2点が上げられる。一つは、素直な生徒が多いこと。もうひとつは、学習に意欲的な生徒と双でない生徒との格差が大きいということである。このような、本校の実態から、「帯学習」を取り入れ「授業規律」「繰り返し学習」「家庭学習指導」に重点を置きそのための「ノート指導」を考えている。本年度の生徒は、「聞く力」「書く力」を初めとし、下記の一昨年度・昨年度の実態と多くの共通点があった。

学習の基本である「話を聞くこと」ができない生徒が全体の3分の1ほどいた。年度当初は、発問すると何を質問されたかわからないということが多かった。そのため、聞いていたかどうかをはっきり確認するために起立させて着席させるという方法を1学期から多く行い、聞き方を改善させてきた。

書くことについても格差があり、10分で400字書ける生徒もいれば、何を書けばよいかを期机指導して支援しても1時間で100字書けない生徒も数人いた。

基本的な言語事項や漢字などが定着しておらず、文法の「言葉のまとまり」や詩の形式や表現技巧などについて理解している生徒は1割にも満たなかった。

一昨年度は、2学期の初めの実力テストの結果を受け9月10月は、古典指導に重点的に力を入れ音読や基本的な事項の反復練習を中心に行ってきた。古典については、平均点が約5点向上した。昨年度は、一昨年度の実践をふまえ、4月当初から古文・漢文に力を入れながら「帯学習」を身に付けさせる指導を行ってきた。学習定着度状況調査の正答率は、2学年で43%(管内53%)だったが、3学年で61%(管内63%)と管内との差10%を2%にまで縮めることができた。

本年度は、1学年担当であったが、音読後や説明後に簡単な質問をし、聞いていたかどうか確かめたところ聞き取れていない生徒が半数以上を占めているという実態があった。作文についても、翔生徒と書けない生徒との格差が前年度までの生徒と同様であった。

以上のような、本校の実態をふまえ、一昨年度と昨年度に引き続き「帯学習」「ノート指導」を大事にしながら「授業規律」「繰り返し学習」「家庭学習指導」を行っている。

(4) 指導観

説明的文章においては、文章の筋道や構成に即して文章の要旨をとらえ、筆者の考えを理解することがねらいとなる。これまで、説明的文章の指導では、筆者が何を問題としているのか、考えと根拠は何か、事例はどのようなものか、といった課題に対し「論の進め方」や接続する語句などに注目させ学習を進めてきた。本教材においても、筆者の「主張」はどこにあるかその「主張」をするために

どんな「事実」を挙げ、どのように「理由づけ」しているのかを捉えさせ、内容の理解を図りたい。
 生徒は、小学校の説明文「生き物はつながりの中に」や理科の学習で食物連鎖について学んできており、環境について学習しある程度の知識を持ってきているので、内容についての理解は難しくないものと思われる。3時間という短い時数での指導となるので、発問や板書を焦点化し、巨視的な読み方を学習させたい。ただし、生徒は細かく読むことには慣れているが、大きく全体をとらえたり、広い範囲から重要なところを探すことには慣れていないので、対比されている段落を見付けさせたりサイドラインを引かせるなど「方法課題」を指示したりしながら学習させていきたい。

3. 単元目標および評価規準

- (1) 国語への関心・意欲・態度
- ・ 自然や環境について、自分とのかかわりを考えながら文章を読み進めようとする。
 - ・ 自分の課題に沿って積極的に資料を集め、それをもとに自分の考えを分かりやすくまとめようとする。
- (2) 話すこと・聞くこと
- ・ 話題や方向をとらえて的確に話したり聞いたりして、自分の考えをまとめることができる。
 - ・ 自分の考えや相手の意図に注意し、話したり聞き取ったりすることができる。
- (3) 読むこと
- ・ 語句の意味を正確にとらえ、展開を確かめながら要旨をとらえることができる。
 - ・ 事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえることができる。
 - ・ 書かれている内容に関連して、自分の課題を見つけることができる。
- (4) 書くこと
- ・ 必要な情報を集め、その中から適切な材料を選ぶことができる。
 - ・ 伝えたい事実や課題および自分の考えを明確にして、文章にまとめることができる。
- (5) 言語についての知識・理解・技能
- ・ 文章の中の段落の役割や、文と文との接続関係などをとらえることができる。

4. 指導・評価計画（教材「めぐる輪の中で生きる」について）

時間	学習内容 (指導内容)	評価規準<評価方法>		
		国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
1	・ 最初と最後の段落を読み、まとめの段落はどちらなのか捉える。 ・ 前半の内容をとらえる。 (本時)	・ 題との関係を考えまとめの段落を見つけることができる。 観察 ・ 段落の書き始めの言葉や対比を考えながら文章を読み進めようとする。 観察	・ 最初と最後の段落を読み、それぞれの内容を捉えることができる。 観察 ・ キーワード「めぐる輪」「ミニ地球」に気づくことができる。 発表	・ 意見文のまとめは、頭括型・尾括型・双括型の3つがあることを確認し、この文章はどの型であるかをとらえることができる。 観察
2	・ 前半を音読し、前時に読みとった内容を確認する。 ・ 後半を音読し内容をとらえる、	・ 自然や環境について、自分とのかかわりを考えながら文章を読み進めようとする。 観察	・ 事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を正確にとらえることができる。 ・ 語句の意味を正確にとらえ、展開を確かめながら要旨をとらえることができる。 発表・ノート	・ 文章の中の段落の役割や、文と文との接続関係などをとらえることができる。 発表
3	・ 全文通読し、文章の構成がわかるように「めぐる輪」「日本」「アメリカ」「主張」「事実」などのキーワードを使いコンセプトマップをつくる。	・ 自然や環境について、自分とのかかわりを考えながら文章を読み進めようとする。 観察	・ 事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を正確にとらえることができる。 ・ 語句の意味を正確にとらえ、展開を確かめながら要旨をとらえることができる。 発表・ノート	・ 文章の中の段落の役割や、文と文との接続関係などをとらえることができる。 発表

5. 本時の指導

(1) 授業の構想

単元のひとつ目の教材「魚を育てる森」において、説明文の「論の進め方」をとらえさせてきた。本時では、題との関係を考えさせながらまとめの段落がどこにあるかをとらえさせたい。その際、最初と最後の段落を音読させ、最初の段落に出来事とその説明について、最後の段落に題名に対する筆者の考えが書かれていることを読みとらせたい。

また、キーワード「めぐる輪」「ミニ地球」「わたしたちの地球」に着目させ前半の内容をとらえさせたい。そのとき、筆者が「ミニ地球」と「わたしたちの地球」を対比させながら論を進めていることに気づかせ

(2) 本時のねらい

題との関係を考えまとめの段落を見つけ、段落の書き始めの言葉や対比を考えながら文章を読み進めようとする。(国語に関する関心・意欲・態度)

最初と最後の段落を読み、それぞれの内容を読みとり、キーワードとして「めぐる輪」「ミニ地球」などをとらえることができる。(読むこと)

意見文のまとめは、頭括型・尾括型・双括型の3つがあることを理解し、この文章はどの型であるかをとらえることができる。(言語についての知識・理解・技能)

(3) 本時の展開

過程	学習活動	生徒の活動	教師の指導・援助・留意事項	教具等	具体的評価規準
始業前準備			・始業前に、教師が教室に入り生徒を待つ。 ・遅れてきた生徒がいた場合は指導する。		
		・テストする漢字の予習を行う。 *教科リーダーが漢字の番号を板書しておく。	・教科書・ワークが机の上にていてノートが開いた状態になっているのを座席表で確かめる。 (準備していなかった生徒については授業中または授業後にその日のうちに指導する)	ワーク 資料集 辞書	

過程	学習活動	生徒の活動	教師の指導・援助・留意事項	教具等	具体的評価規準
導入			・道具準備をしていない生徒が道具を出しながら、挨拶をしないように指導する。 ・指導者側も、しっかり挨拶する。		
	1. 語句の学習	・前時及び家庭学習 ・授業前休み時間などに学習した漢字テストをする。 ・漢字の下に、その漢字を用いた熟語や短文を書く。 ・テスト後に「採点」「チェック」(日付とマーク)復習「予習」「調べ学習」(辞書引き)を行う。	・漢字テストをしながら、漢字の使い方や部首などについて指導する。 ・結果を記録し、事後指導していく。	ワーク 資料集 辞書	A 語句について教師の話を聞くとり漢字を用いて短文づくりを行い、辞書・資料などを利用し積極的に学習できる。 B 語句について教師の話を聞き取り短文が熟語をかくことができる。 C どのように学習すればよいか机間指導する。
	2. 既習事項の復習	・反復法 ・体言止め ・漢文 返り点 ・言葉のまとめりなど	・前の時間に新しくやったことから復習する。 ・テンポ良く学習していく。	フラッシュカード	

過程	学習活動	生徒の活動	教師の指導・援助・留意事項	教具等	具体的評価規準
	3. 学習課題の把握	・課題をつかむ。 ・教師が板書すると同時にノートに書き取る。	「今日は(『めぐる輪』の中で生きる」という説明文で)「論の進め方」について勉強します。」 ・学習課題「論の進め方をつかむ」を板書す		

展 開			る。	
		論の進め方をつかむ		
		・全員が「まとめの段落がどこにあるか」を前教材から思い出すことができるようにする。	「まとめの段落は、普通文章のどこにありま すか。」(既習事項との 関連を図る	
	4. まとめ段落を読み取る。 (1) 自分の考えを持つ。	・全員が「まとめの段落がどこにあるか」を前教材から思い出すことができるようにする。 事実(出来事) 説明 主張(考え) 「～た」 「めぐる輪」 「いえるだろう」	「この文章では、まとめの段落はどちらで終わるか。初めの段落と終りの段落を読んで考えなさい」 「教科書のそう考える根拠となる言葉にサイ ドラインを引き、その 言葉を使って理由をノ ートに書きなさい。」 ・指示が複数あるので 板書して整理する。	A それぞれの段落に書かれている内容が事実(出来事)なのか主張(考え)なのかを読み取り、題との関係をおげ説明文のまとめの段落を見つけ、根拠となる言葉を挙げまとめとなる理由を説明することができる。 B それぞれの段落に書かれている内容が事実(出来事)なのか主張(考え)なのかを読み取り、まとめの段落を見つけ、根拠となる理由をみつけることができる。 C 書かれていることが「事実」なのか「主張」なのかをつかめるように机間指導する。
	(2) 考えを交流し学び合う。	・ノートを見て、サイドラインを引いたら言葉をつかひながら理由を発表する。	・「相互誘発」考えの出し合い 「相互葛藤」意見交換 「自己葛藤」 「相互補足」誤答・勘違いなどを互いに修正し強化して正答、正しい考え方を誘導 「自己補足」 しっかりと聞き取れるように聞き取れているかどうか随時確認する。	ラ ユ ー ン フ シ カ ド 辞 書
	・説明文では、「具体例」などの「事実」が述べられていることを思い出す。	・「まとめの段落を述べていくために、説明文では他にどんなことを述べていましたか。」(既習事項との関連を図る)		
5. 初めの段落の動きを読み取る。	・それぞれの段落の第一文に何が書かれているかをつかめるように留意し範読を聞く。	・「これから、前半部分を読みます。段落の最初の文にどんなことが書かれているのかをつかみながら聞いてください」 前半の内容がとらえられるように範読する。		
	・キーワードとなる言葉が「ミニ地球」「わたしたちの地球」「本当の地球」「めぐる輪」であることを理解し、それぞれの段落の内容をつかむ。 板書 ミニ地球 わたしたちの地球 対比 比べて引き立てる ミニ地球 この実験	・「2段落目の第一文を読んでください」 「この文は、一言で言うとなんのことについて書かれていますか。」 「これから、3・4・5段落の第一文を読み落とすには、一言で何のことについて書かれているのか考えながら読んでください。」 「一文の内容が一言で書かれている言葉にサイドラインを引きなさい。」 「前半部では、「ミニ地球」と「わたしたちの地球」が対比されています。どちらのことを強くのべるために対比していますか」		A 段落の最初の文に一言で書かれたその段落の内容をつかむとともに対比が効果的に用いられていることに気づき、前半部の内容をつかむことができる。 B 段落の最初の文に一言で書かれたその段落の内容をつかむとともに対比が効果的に用いられていることを理解し、前半部の内容をつかむことができる。 C 板書にまとめながら、前半部の内容を理解させる。

ま と め	6. 学習内容をまとめる。	・筆者の論の進め方をまとめる。	～ 事実 ～ ? 次時に読 み取る 主張		
	7. 次時の学習内容の予告	・次時の学習内容がしっかりつかめるように話をする。	・「この文章は、「ミニ地球」の話題とから段落で述べられている内容を根拠にして段落のまとめを引き出しています。」 「 から段落では、どんなことをいっているのかを次の時間には、つかんでいきます。」		